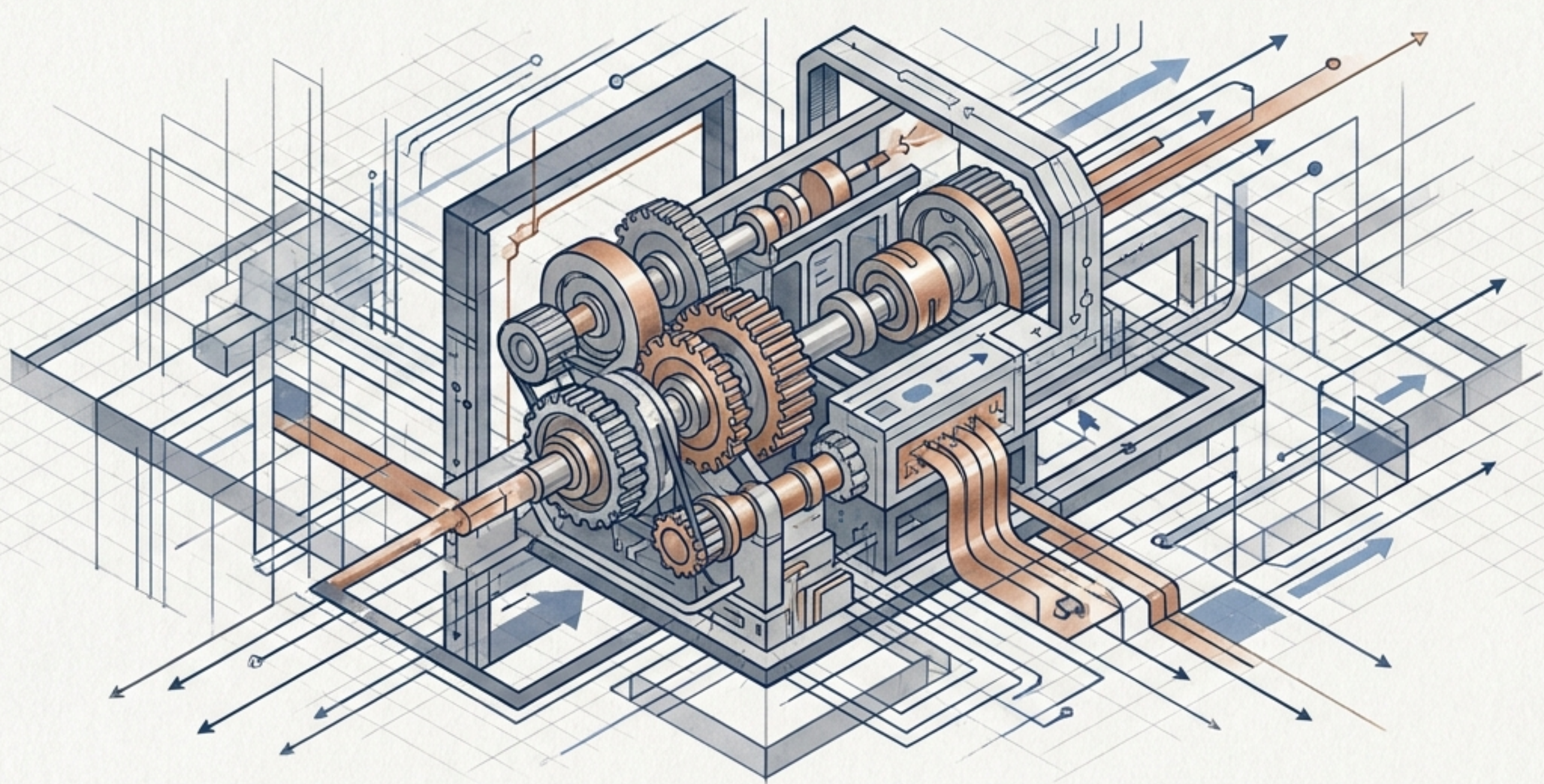


古河電工のAI活用IPランドスケープ

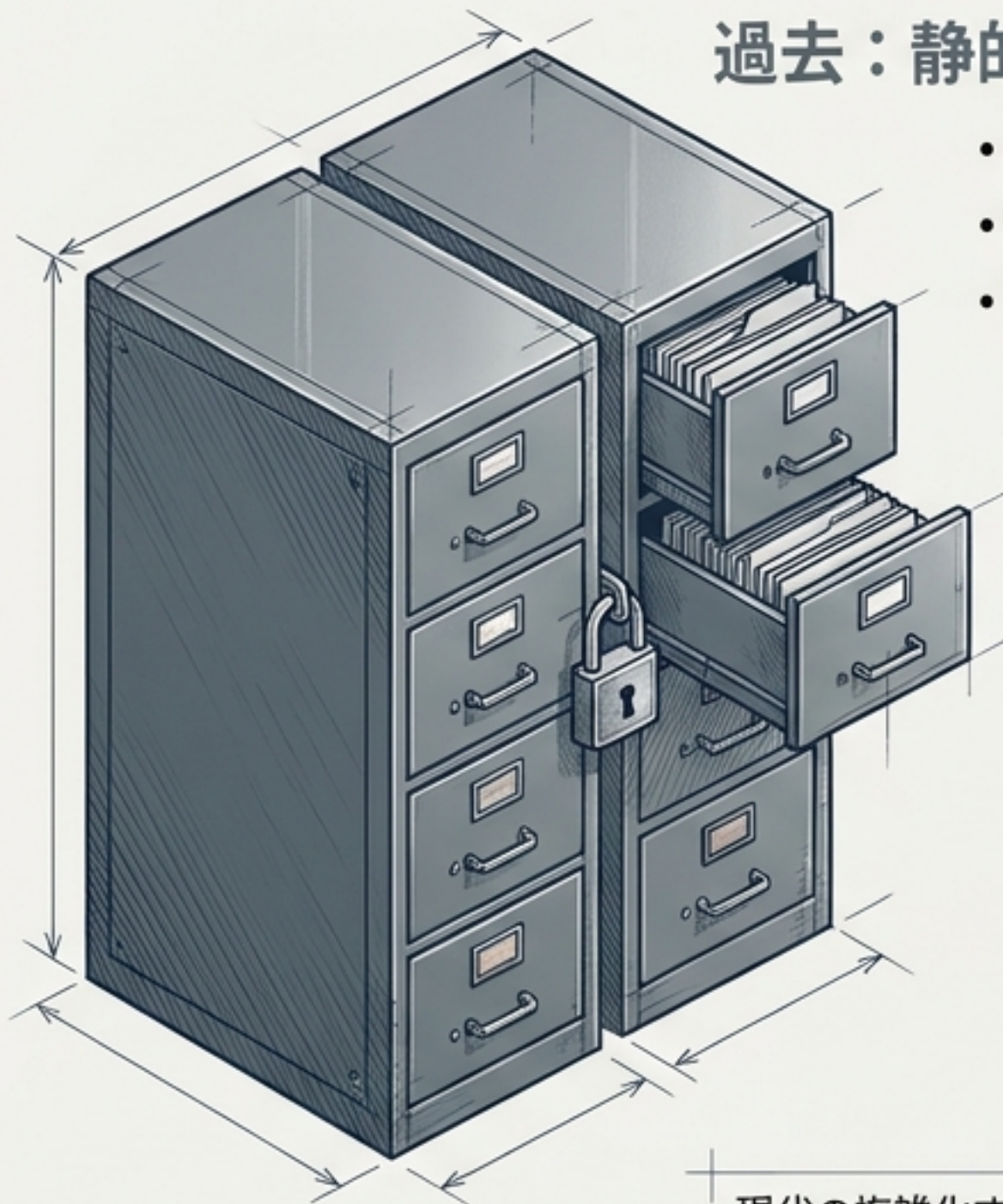
知的資本を「動的イノベーションエンジン」へ変革する戦略的統合の全貌



知的財産は「防具」から「市場を定義するエンジン」へ

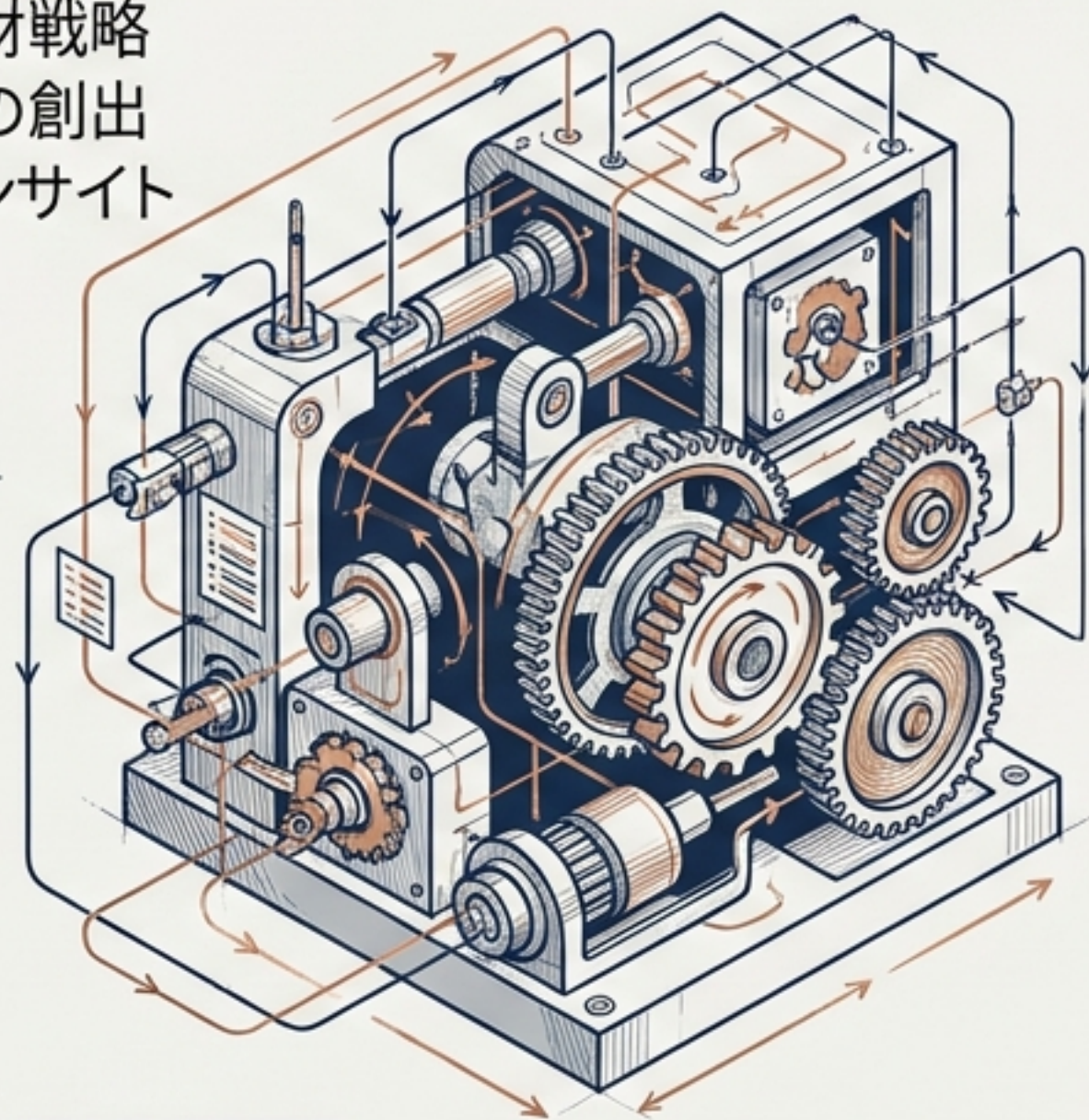
過去：静的なアーカイブ

- 防御手段
- 検索の限界
- 法務的維持



未来：動的イノベーションエンジン

- 攻めの知財戦略
- 事業機会の創出
- 自律的インサイト



現代の複雑化する製造業において、特許情報の役割は劇的なパラダイムシフトを遂げています。生成AIの統合により、静的なアーカイブは自律的にインテリジェンスを生み出す動的エンジンへと進化します。

曖昧な中間領域を避ける「バーベル戦略」

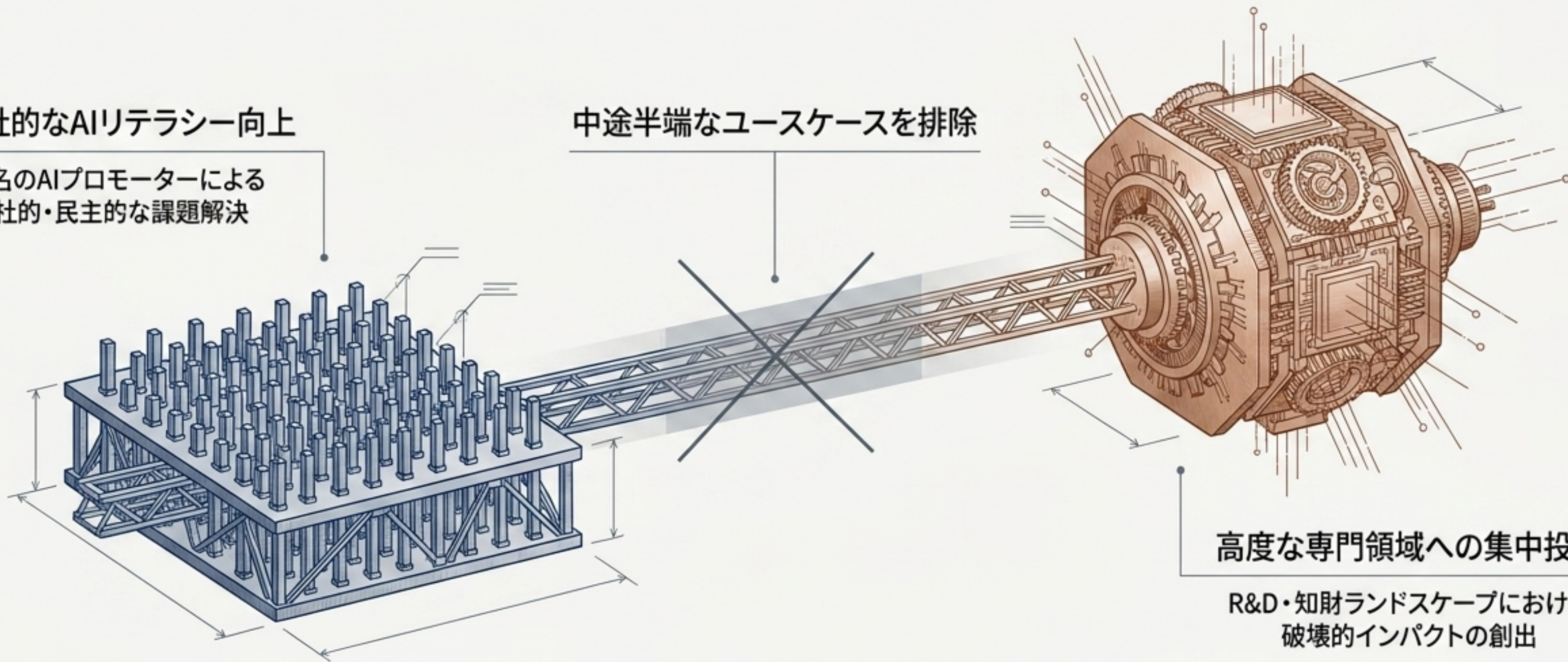
全社的なAIリテラシー向上

80名のAIプロモーターによる
全社的・民主的な課題解決

中途半端なユースケースを排除

高度な専門領域への集中投下

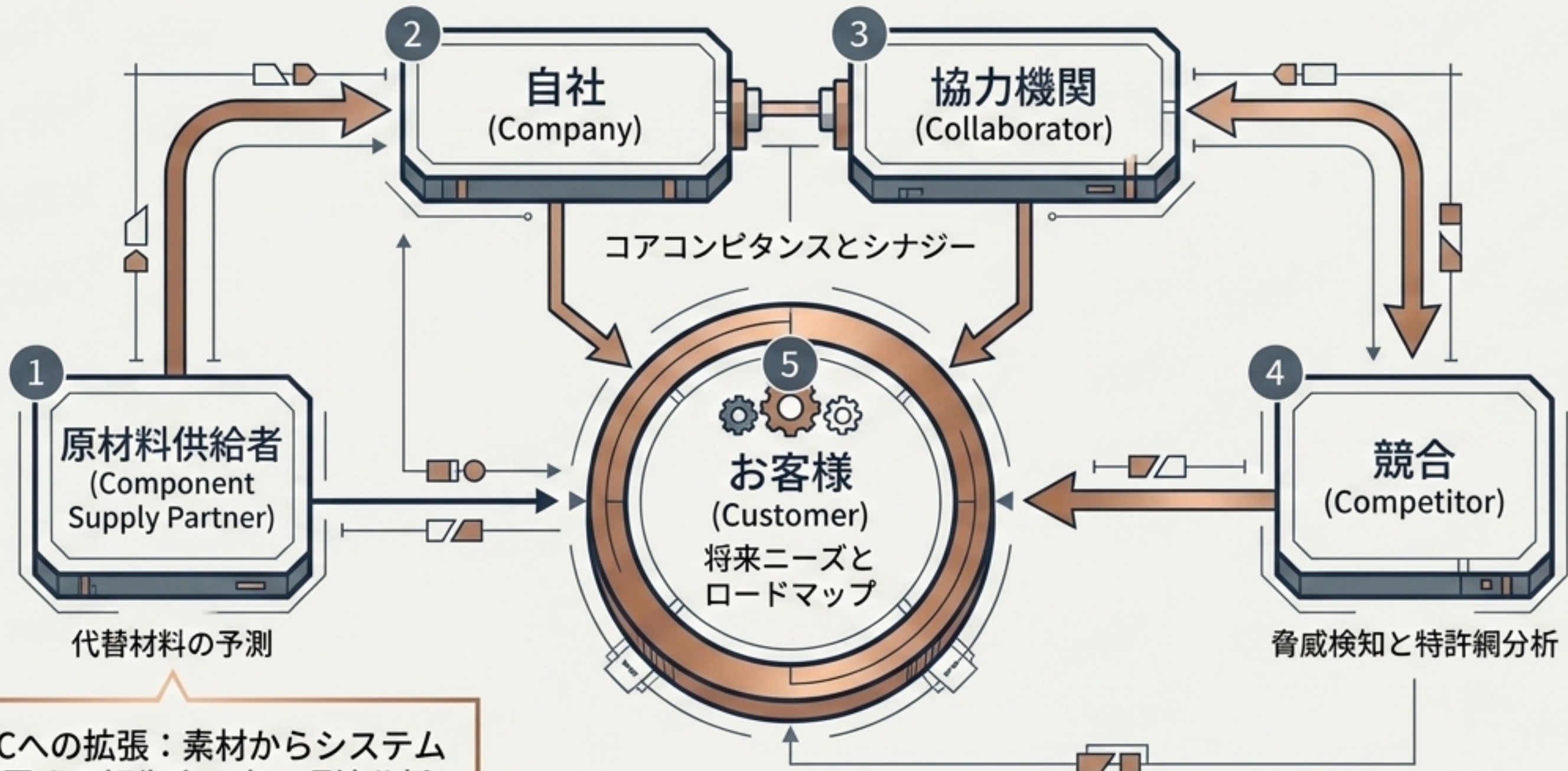
R&D・知財ランドスケープにおける
破壊的インパクトの創出



AI導入における最大の罣は、専門性も影響力も中途半端な領域への適用です。

古河電工は、極端に異なる2つのアプローチを同時に実行する「バーベル戦略」で全体最適を図ります。

生成AIの「思考の型」となる独自の「IP5C」フレームワーク



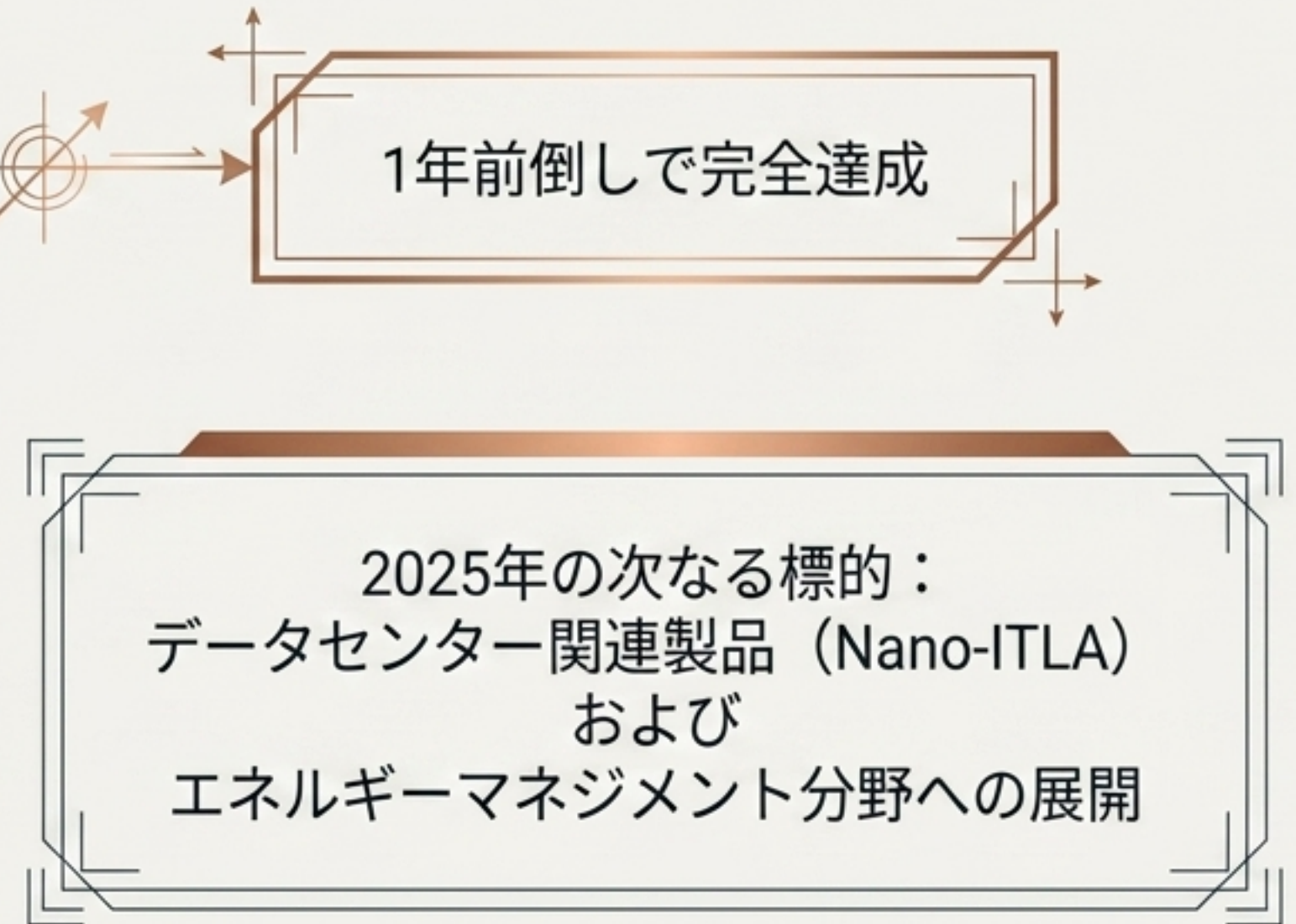
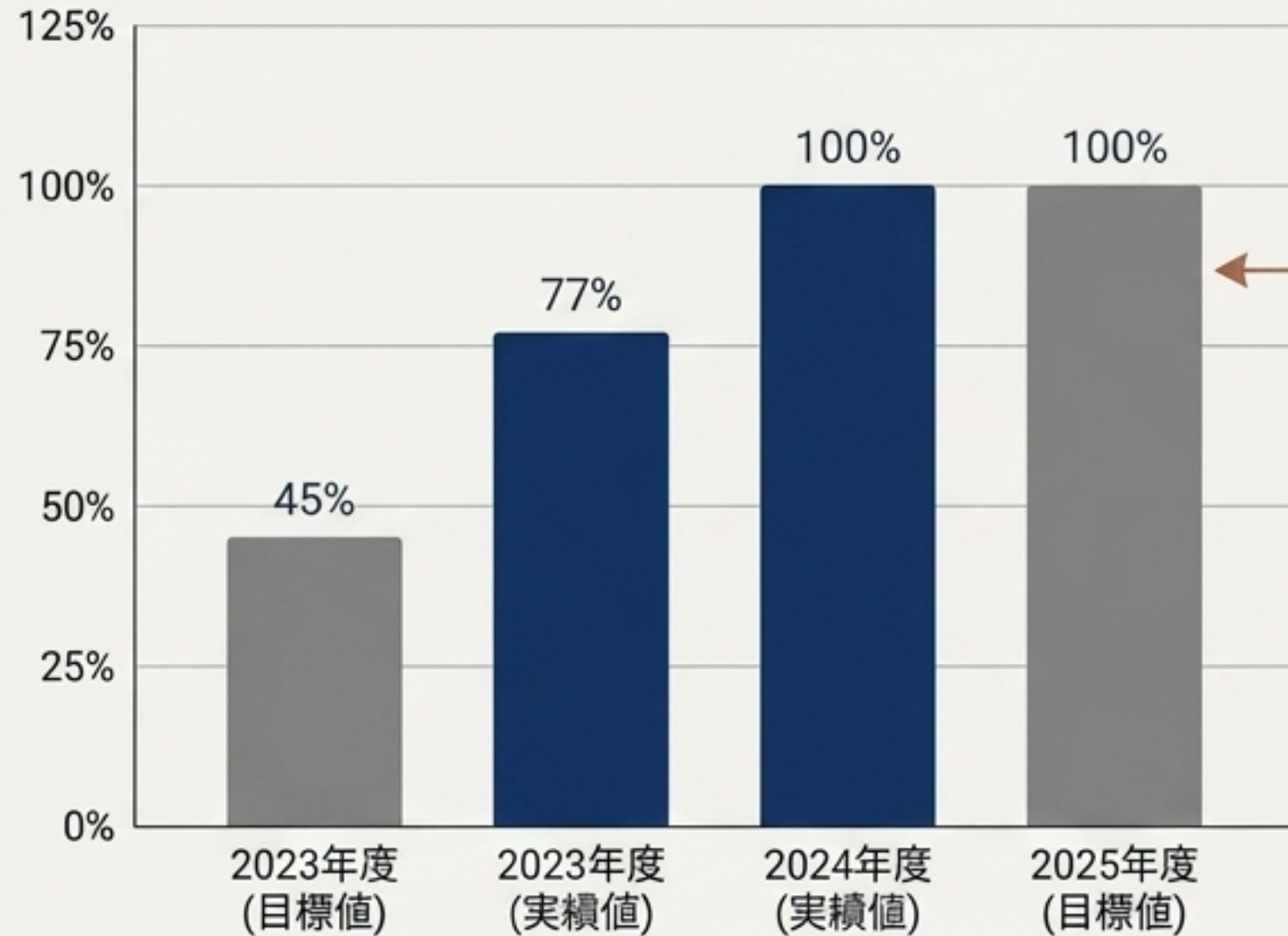
3Cから5Cへの拡張：素材からシステムまでを網羅する解像度の高い環境分析

AIは単なる検索ツールではありません。BtoBの複雑なサプライチェーンを網羅する「IP5C」という論理構造が既に存在したからこそ、AIは即座に「戦略立案エンジン」として機能しました。

経営層の強力なコミットメントがもたらす圧倒的な実行スピード

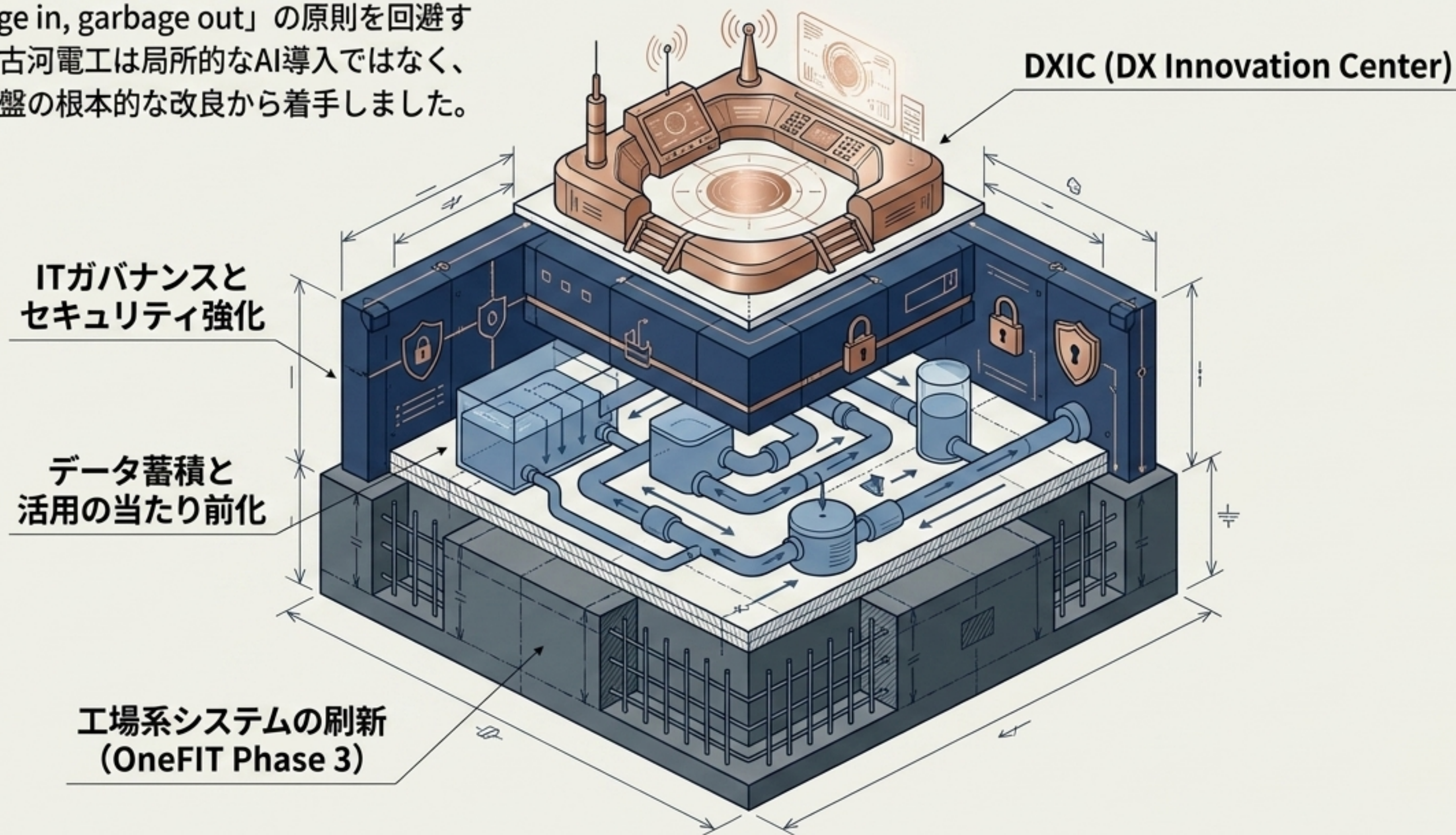
新事業創出から既存事業まで、あらゆる重要プロジェクトは
実行前に厳密な知財戦略の精査を受けます。

年度別 IP ランドスケープ 実施率推移 (%)



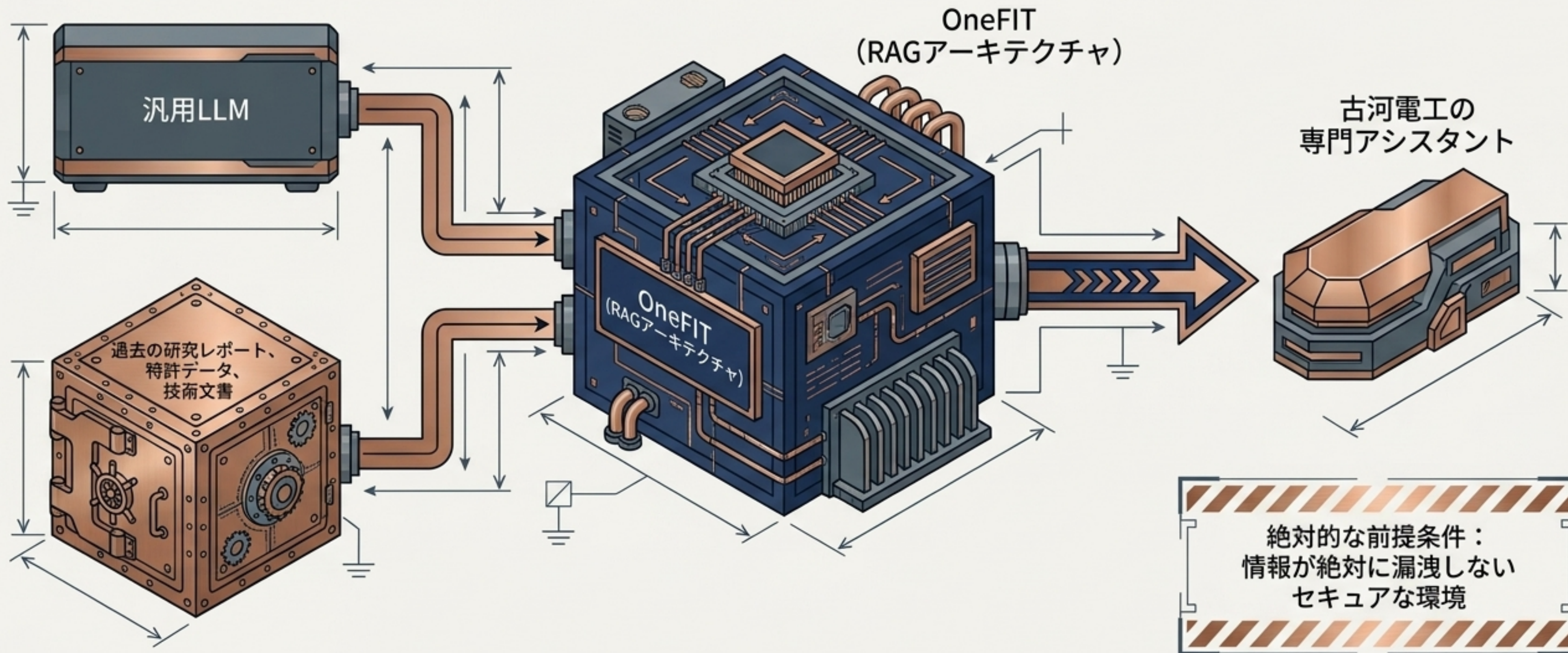
高度なAIを支えるデジタルトランスフォーメーションの4本柱

「Garbage in, garbage out」の原則を回避するため、古河電工は局所的なAI導入ではなく、全社的基盤の根本的な改良から着手しました。



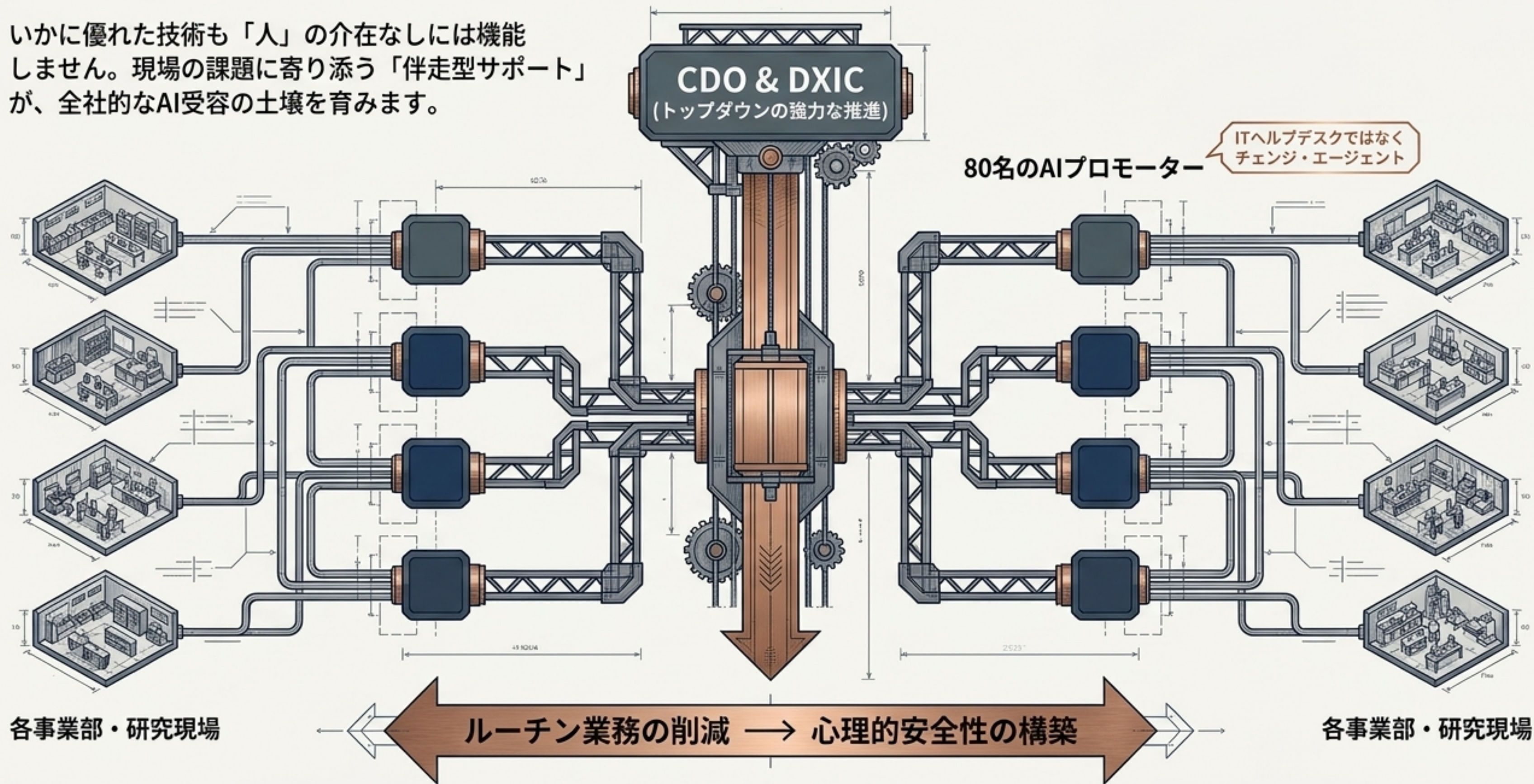
古河電工の「技術DNA」を継承するセキュアな生成AIプラットフォーム

情報漏洩リスクを完全に排除した社内専用プラットフォーム「OneFIT」。
パブリックAIの推論能力と、自社の機密データを掛け合わせることで、圧倒的な専門性を獲得します。



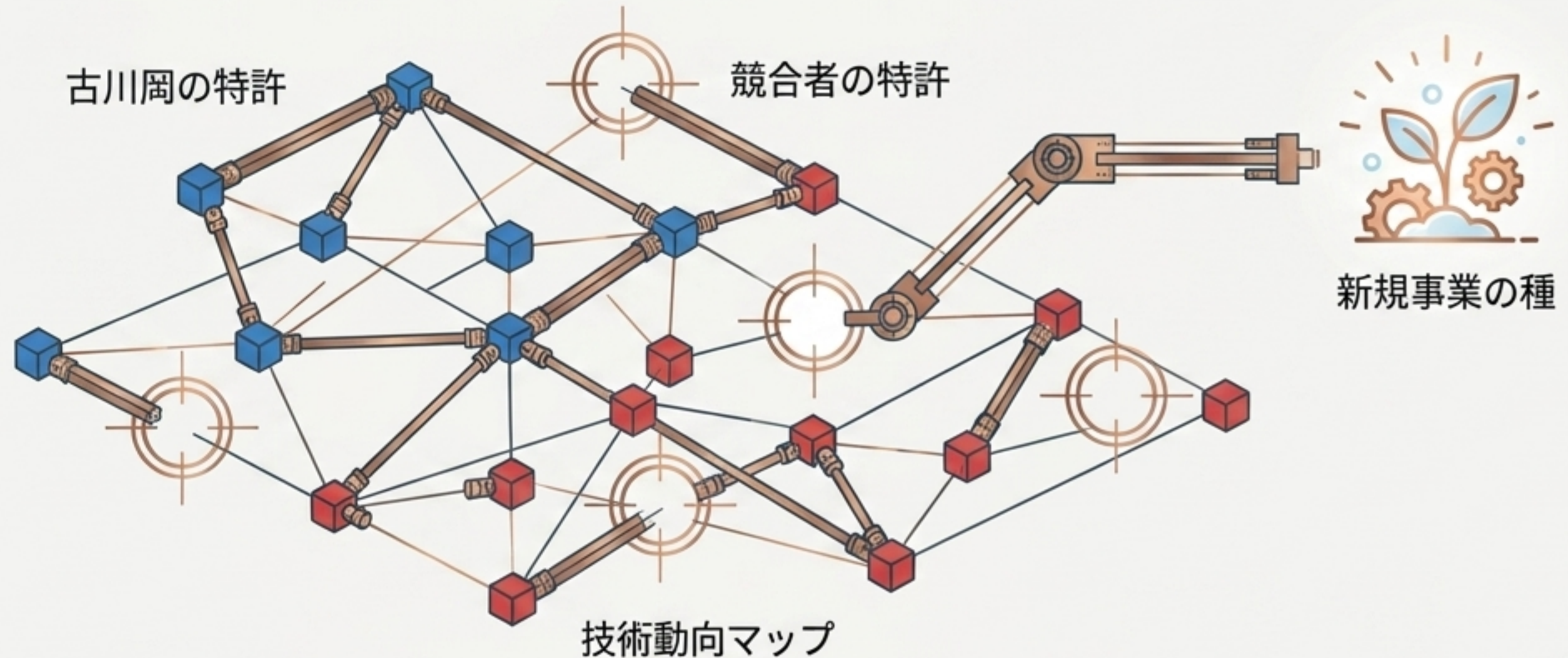
組織文化を変革する「AIプロンプロモーター」エコシステム

いかに優れた技術も「人」の介在なしには機能しません。現場の課題に寄り添う「伴走型サポート」が、全社的なAI受容の土壌を育みます。



未知の事業機会を自律的に発見する「ホワイトスペース」探索

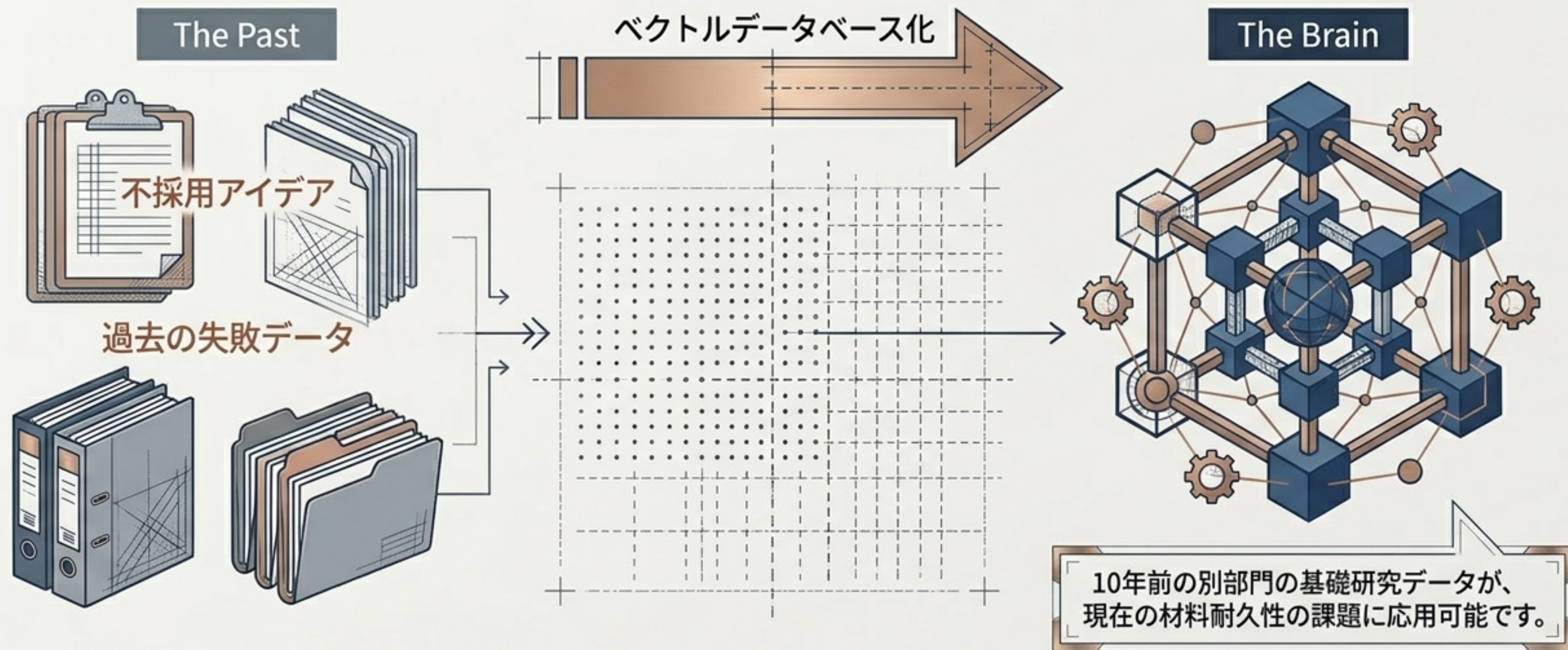
独自の可視化メカニズムにより、自社も競合もまだ気づいていない、
しかし社会課題解決に向けて不可欠な「技術的空白地帯」をピンポイントで特定します。



競争インテリジェンスの極致：異業種技術との「新結合」による創発。

フェーズ1：組織の記憶を統合する「コーポレート・ブレイン」

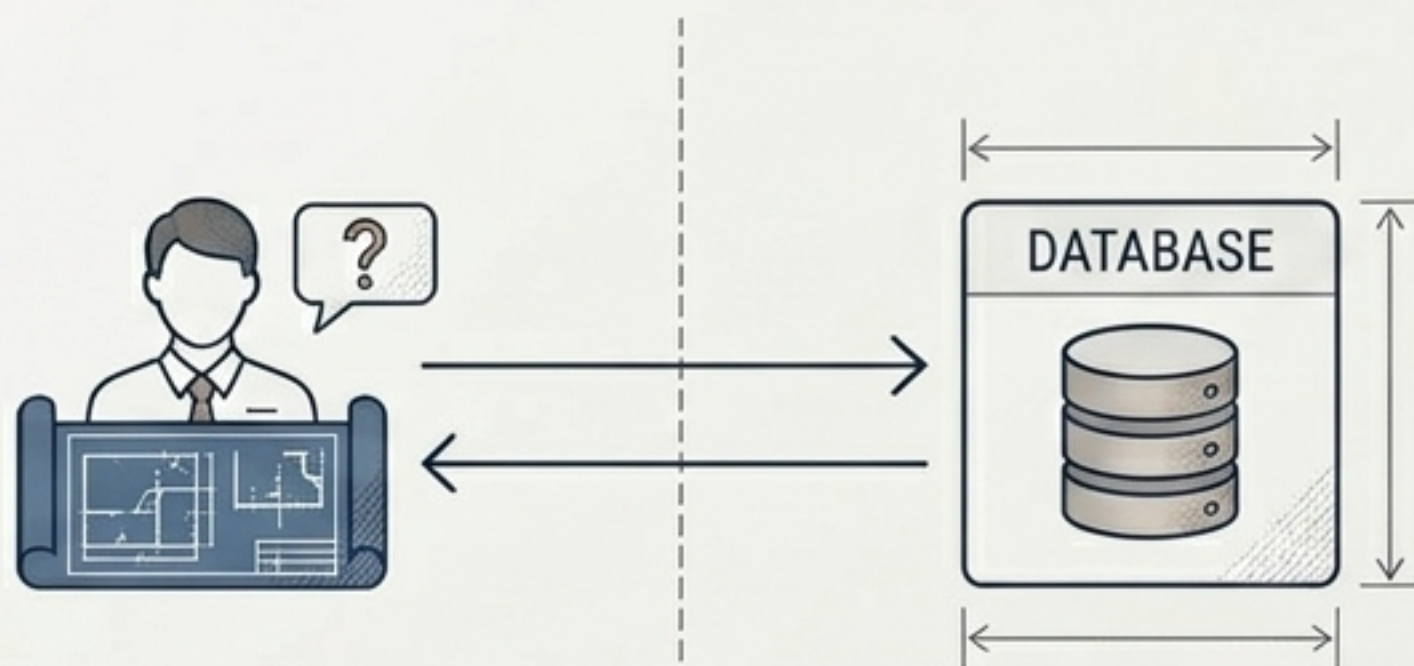
部署のサイロや世代交代によって失われていた「過去の失敗データ」や「暗黙知」をベクトル化し、全社横断で自由に照会できる企業頭脳を構築します。



究極の目標：自律的に未来を警告する「知財AIエージェント」

人間のプロンプトを待つ受動的なツールから、24時間365日グローバル環境を監視し、リスクと機会を先回りして提案する自律型の戦略パートナーへの進化。

フェーズ1（現在）：「受動的ツール」



人間のプロンプト入力に対してのみ応答

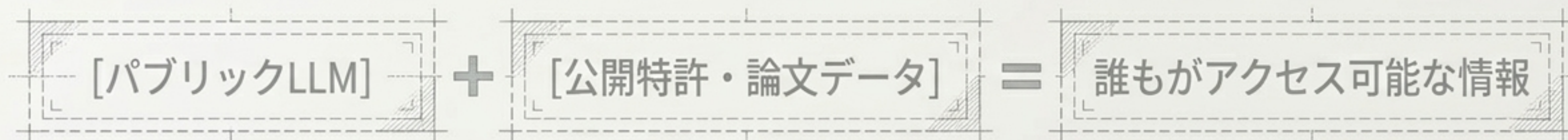
究極の目標：「自律型パートナー」



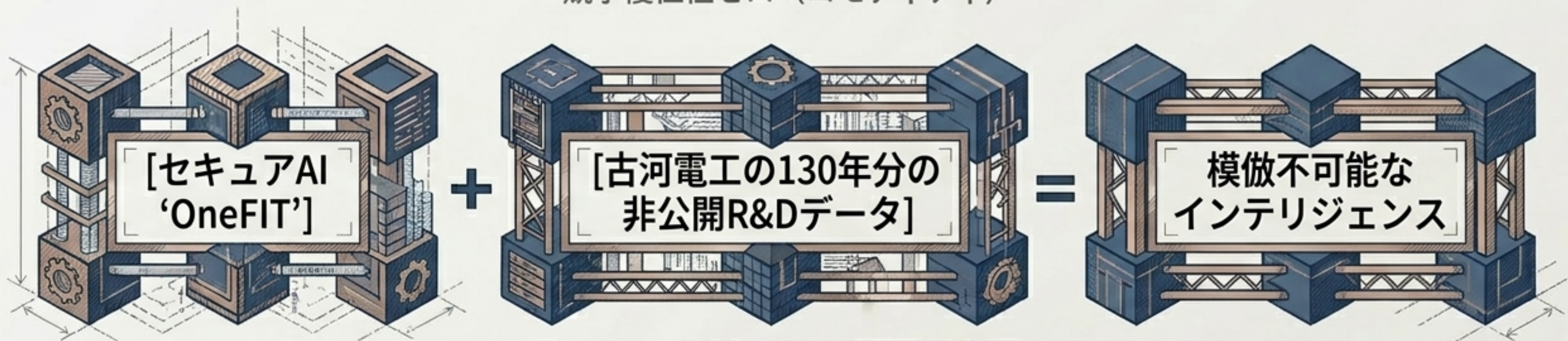
AIがグローバル環境を常時監視し、競合の脅威を検知。

模倣不可能な絶対的競争優位性「経済的な堀 (Moat)」の正体

AIモデル自体はコモディティ化します。真の競争力は、AIという触媒と、130年の歴史を持つ「門外不出の独自データ」の融合によってのみ生まれます。



競争優位性ゼロ (コモディティ)



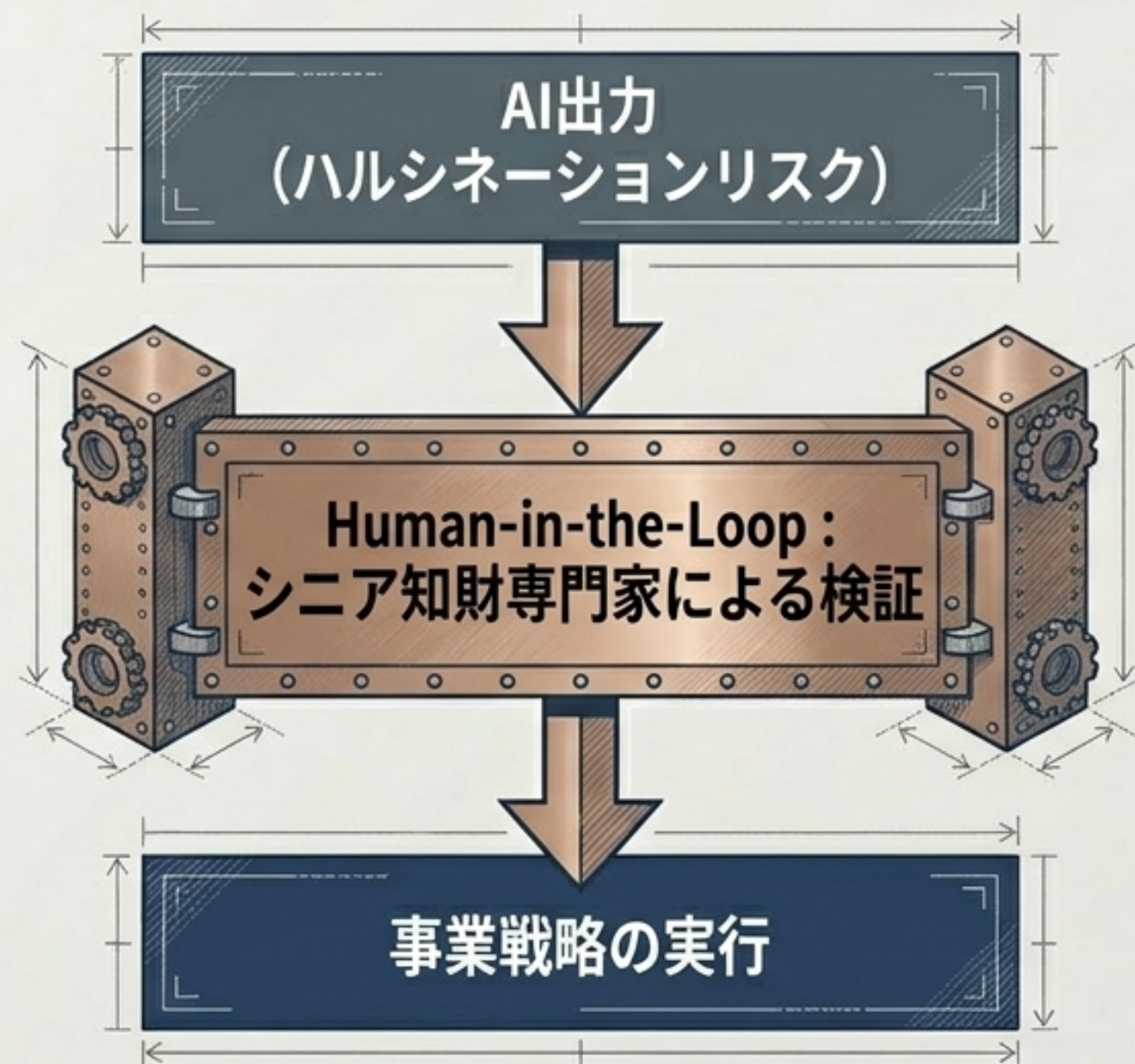
The Uncopiable Moat (経済的な堀)

AIは単なる触媒であり、真の資産は古河電工の歴史的な文脈と技術的DNAそのものである。

パラダイムシフト：探索者から「戦略のアーキテクト」へ

認知的な重労働をAIが代替することで、人間の役割は「事実の検索」から「事業価値の評価」へと移行します。同時に、AIの技術的限界を管理する厳格なガバナンスが求められます。

過去のIP担当	新たな戦略アーキテクト
探索者	評価者
防御的	攻撃的
法務中心	戦略中心
手動ドキュメンテーション	新規事業の推進



変革を現実にする「三位一体」のメカニズム

テクノロジーが速度を決定し、論理的な戦略が方向性を定め、人間の創造力が最終的な価値を生み出します。古河電工は、この統合によりデータ駆動型の圧倒的な優位性を確立します。

堅牢なインフラ基盤

DX 4 Pillars / OneFIT

人間中心の組織風土

AI Promoters / Change Agents

動的イノベーションエンジン

論理的な戦略フレームワーク

IP5C / KPI 100%

AIという新たな知性を組織のDNAに統合し、人間の創造力を最大化する。